

きずな

2020 **3** March

今号の題字

日南市立吾田中学校 2年
土田 愛美さん



元氣と笑顔をおくる挨拶運動

日南市立吾田中学校(都甲 政文校長・生徒数405名)の目指す生徒像は、学校名の頭文字をとって「**あ**たたかい心・**か**んばる学習・**た**くましい身体」です。これには「思いやりをもち心豊かな生徒」「学ぶことに喜びを感じる生徒」「健康な身体をもとに何事にも挑戦する生徒」になってほしいという願いが込められています。

毎月、保護者と生徒会で合同挨拶運動を行っています。学校の前の歩道に並んで、生徒や地域の方々へ「今日も元気にいっしょに行こう」のカードを持ち、元気一杯の笑顔で挨拶をします。ドライバーの方々が笑顔で応じてくださる姿に嬉しい気持ちになります。これからも元氣と笑顔を与えられるような吾田中でありたいです。【教頭 中邨浩一郎】

CONTENTS

- ②・③ 県P都城市・三股町大会
- ④・⑤ 県P情報
コラム「三輪車」
PTA新聞コンクール
- ⑥ トピックス「日向市立美々津中学校PTA」
編集後記



美々津の伝統を受け継ぐ子どもたち

〔日向市立美々津中学校PTA〕

立磐神社は、日向市美々津町の耳川河口にある神社で、御祭神は海上守護の底筒男神、中筒男神、表筒男神の住吉三神、そして神武天皇をお祀りしています。第12代景行天皇の御代に創祀されました。

立磐神社例大祭は、11月に斎行されますが、その際、美々津中学校の生徒が奉納するのが「權伝馬踊り」です。これは、正月の海上儀礼を踊り化したものです。美々津は、江戸～明治時代を全盛として、京阪神や瀬戸内方面との交易で栄えた町であり、そこから持ち帰った海洋民族行事の一つといわれます。法被に褌掛け、白足袋という姿の8人が權を漕ぎ、赤い長襦袢(昔は女性のものを着用)の踊り手が、樽太鼓に合わせて体を反らすように小さな權を頭上で前後左右に手踊りします。權を操る際の囃子ことばは、「ホウライ(蓬萊)エンヤ



美々津祭

(栄弥)エンヤガ(栄弥賀)エイエイ(栄栄)」と言います。船は耳川河口を勇壮に漕ぎ、川中央で3回右回りしますが、これは船卸しの儀式に従ったも



のようです。最後に、岸壁の見物客に船より餅がまかれます。

もともと權伝馬踊りは、地元立縫地区の消防団員により奉納されてきました。

平成9～10年に、美々津小・美々津中学校が「学社融合推進モデル研究校」に指定されたことを受け、模擬の船を作り、中学校の文化祭で權伝馬踊りを披露しました。平成13年には、中学生の權伝馬踊りが初めて耳川河口で奉納されました。少人数の学校のため、学校行事や部活動等により練習時間を設けることは大変ですが、權伝馬踊り保存会会長の指導のもと、伝統を受け継いで勇壮な踊りを披露しています。なお、女子生徒は、神楽(立磐神社では神子(みこ)舞)の奉納をします。



神子舞

参加した生徒に感想を聞きました。踊りで難しかったところは？

・船の上ではバランスを取りづらく、リズムに合わせて踊るのは大変でした。